

## 開始時 一人一人を観察する

授業のチャイムが鳴り、E教諭が黒板の前に立つのと同時に、日直が号令をかけた。

E教諭：「風邪がはやっているようだけれど、このクラスはどうか  
な…。出席をとるから返事をしてください。」

一人一人の生徒を見ながら返事を聞いていると、机に伏せたまま座っているFさんに気付いた。

「Fさん。」「はい。」

E教諭がFさんの名前を呼ぶと弱々しい返事が返ってきた。E教諭はFさんの所まで行き、「大丈夫？昨日休んでいたようだけれど…」と声をかけ、Fさんの具合を確かめた。



この事例では、机に伏せているFさんが気になっていたところ、具合の悪そうな返事が返ってきたので、教師がその場でFさんのところへ行き、「大丈夫？」と声をかけ、様子を確認しています。

### 子供の小さな変化をとらえて声をかける

授業の始めには、全ての子供が見える位置に立ち、子供の様子を見渡し、一人一人の健康状態や学習への姿勢を把握することが重要です。出席を取る際の返事の大きさや声の調子、普段と違った姿勢や言動などから、気にかかる子供がいたら、「どうしたの？」「何かあったの？」などと声をかけることも大切です。声の大きさや姿勢は、子供からのサインです。子供のサインに気付いてきちんと対応することで、教師への信頼感が生まれます。

### 一人一人と目を合わせながら、正確な名前を呼ぶ

子供の名前を覚え、正確に呼ぶことは、教師と子供の信頼関係を築く上で大変重要な役割を果たしています。このことは、「いつも間違った名前で呼ばれるけれども、正しく呼んでくれる先生がいて、その先生の授業が好きになった。」という子供の声があることから明らかです。

また、特定の子供を愛称などで呼ぶこともありますが、愛称で呼ばれることが嫌だったり、逆に、呼んでもらえないことから差別感や不公平感を生むことがあります。

授業の初めに一人一人と目を合わせながら呼名をすることで、一人一人を大切にしたい授業を進めようとする教師の姿勢が子供に伝わります。